

市場調査資料のご案内

Fuji Keizai
Marketing Research &
Consulting Group

ヒートポンプ 温水・空調市場の現状と将来展望 2025

～迫る2030年に向けて加速するヒートポンプ関連市場の実態をグローバル視点で俯瞰～

【市場調査資料サマリー】
2025年11月

株式会社富士経済
ソーシャル・ソリューション事業部

〒541-0043 大阪府大阪市中央区高麗橋3-3-11 淀屋橋フレックスタワー
TEL: 06-6228-2020 FAX: 06-6228-2030

■ はじめに

- 本市場調査資料は、ヒートポンプ関連機器の将来動向を体系的に取りまとめた国内唯一のマーケティングレポートとして、2009年の発刊以来本版で10版目を迎えます。
- 世界的な脱炭素化の流れの中、再生可能エネルギー電源の大量導入が進むことで、電動駆動の熱源自体が脱炭素熱源になるとの理由から、日本や欧州、北米など先進国が掲げる2050年にカーボンニュートラル実現に向けた重要アプリケーションとしてヒートポンプを活用した温水機器および空調機器の注目度が増しています。
- 環境対策において世界をリードする欧州では、これまで「電化」を脱炭素技術の一つとして、燃焼機器から電化機器へシフトさせる規制および補助金政策に取り組んでいます。そうした中、2022年のロシアによるウクライナ侵攻に影響を受けて、欧州の天然ガス価格が急騰した背景により、ヒートポンプ機器の需要拡大が期待されたが、天然ガス価格は緩やかに落ち着きを見せたことが一因となり、直近のヒートポンプ機器の需要は鈍化しました。しかし、欧州で事業展開するメーカーにおいて、ヒートポンプ機器への投資、技術開発は継続して進行しているため、着実にヒートポンプ機器の市場は拡大していくと予想されます。また、温暖化対策だけではなく、2016年に採択されたキガリ改正に基づき、オゾン層保護を目的に、ヒートポンプ機器で採用される冷媒に対しても段階的に使用の制限を設けており、近年ではFgas規制やPFAS規制などを発表し、その動向がグローバル全体で注視されています。また、日本や北米においても、欧州に続くような形で、環境対策に関する法律が制定されています。
- 米国では、2025年よりAIM法の施行に伴いフロン規制などによる環境対策が進む見通しではあったが、2025年1月にトランプ政権に交代されたことで、環境対策よりも経済成長を重視する政策にシフトしつつあり、ヒートポンプ機器市場の見通しは不透明になっています。
- 中国では、2060年のカーボンニュートラル達成に向けて、2030年までにカーボンピークアウトを促進させる動きが加速しており、ヒートポンプ機器需要の拡大が期待されています。
- 先進国が環境対策を進める一方で、インドやASEANのような新興国では、近年、地球温暖化による気温上昇が続いていることや、操作性および省エネ性が高いことが背景となり、ヒートポンプ空調の需要が大幅に伸びています。しかし、新興国の多くが、カーボンニュートラル達成の目標時期が2060年以降となるため、先進国のような環境対策に取り組むような目立った動きはみられません。
- また、ヒートポンプ機器メーカーにおいては、繰り返し強化される冷媒規制に対応しつつ、環境性能や安全性に優れかつ、高性能な製品の開発が求められています。欧州で導入が検討されているPFAS規制のように、規制内容次第では要素部品やシステム構成を大幅に変更せざるを得ないケースが生じるなど、今後の冷媒規制の強化が、ヒートポンプ機器市場拡大の阻害要因となる可能性もあります。
- 本市場調査資料では、各国の脱炭素政策がヒートポンプ市場に与える影響を鑑み、新興国を中心に需要が拡大している「ルームエアコン」や「パッケージエアコン」などの「コモディティ市場」、「業務用ヒートポンプ給湯機」などヒートポンプ機器の開発で燃焼式など従来方式からの代替が進む「新製品代替市場」、「排熱回収ヒートポンプ」や「蒸気／熱風発生ヒートポンプ」といった市場拡大ポテンシャルが大きい「次世代市場」について、冷媒の採用動向や今後の代替予測、エリア別の需要動向など、新規需要開拓や製品開発を実施するうえで必要な情報を整理しました。
- また、「燃焼式給湯器」や「蒸気ボイラ」などヒートポンプ製品と競合する燃焼機器市場についても、需要分野、エリア別の需要動向などを整理すると共に、次世代技術として期待されている「カーボンニュートラル燃料ボイラ」の現状も整理することで、ヒートポンプ機器の代替の可能性や市場の潜在性だけでなく、カーボンニュートラルにおける次世代型燃焼機器の位置づけの俯瞰把握も可能としています。
- さらには、ヒートポンプ関連機器を開発する上で重要な、冷媒やコンプレッサーの動向についても、「脱炭素」「環境負荷低減」に加え、昨今注目されているPFAS規制の動向なども加味して整理することで、時流に乗り注目度が増すヒートポンプ 温水・空調市場の全体像を明らかにしています。
- 末筆ながら、今回の市場調査資料の作成においてご協力を頂いた関連企業、団体各位にお礼を申し上げますと共に、関連メーカーやエネルギー事業者各位のヒートポンプ技術を含めた新製品開発、グローバル戦略構築に本市場調査資料をご活用頂ければ幸甚の至ります。

■ 調査概要

I. 調査テーマ

「ヒートポンプ 温水・空調市場の現状と将来展望 2025」

II. 調査目的

- ①ヒートポンプの国内及び世界市場の最新トレンド市場規模、参入プレーヤーの動向を整理
- ②主要国・地域におけるカーボンニュートラル目標達成に対する動向/規制/補助金の実態を明確化
- ③地球温暖化係数の低い冷媒の、国・地域別の規制や冷媒メーカーの動向を整理し将来的な予測を実施

III. 調査項目

調査対象		対象品目	
冷媒編		1. 概要 2. 冷媒規制動向 3. 主要冷媒メーカーの動向 1) Chemours 2) Solstice Advanced Materials 3) Arkema 4) Mexichem Fluor 5) AGC 6) ダイキン工業	4. 国内の再生冷媒におけるサプライチェーン 5. 製品別動向
コンプレッサー編		1. コンプレッサー市場概要 2. ロータリー 3. スクロール	4. スクリュー 5. レシプロ 6. ターボ
品目編	住宅分野	1. ルームエアコン 2. 住宅向けヒートポンプ給湯機 3. 住宅向けヒートポンプ温水暖房機 4. 地中熱利用ヒートポンプ	5. 住宅向け燃焼式給湯器 6. 住宅向け燃焼式温水暖房機 7. 電気温水器
	業務・産業分野	8. パッケージエアコン/ビル用マルチエアコン 9. ガスエンジンヒートポンプエアコン 10. チリングユニット 11. ターボ冷凍機 12. 吸収式冷凍機（冷温水発生機）	13. 冷凍・冷蔵ショーケース 14. コンデンスユニット 15. 業務用ヒートポンプ給湯機 16. 蒸気ボイラ（貫流ボイラ） 17. 業務用温水ボイラ
	輸送・移動体分野	18. カーエアコン	19. 電動自動車用カーエアコン
	次世代技術	20. 排熱回収ヒートポンプ 21. 蒸気/熱風発生ヒートポンプ	22. 磁気ヒートポンプ 23. カーボンニュートラル燃料ボイラ

IV. 調査方法

株式会社富士経済の専門調査員による直接面接を基本としたヒアリング取材を実施した他、弊社データベースや関連団体による基礎情報などを活用することにより総合的かつ客観的な調査/分析を行った。

V. 調査期間

2025年8月～2025年11月

VI. 企画・調査・編集

株式会社富士経済 ソーシャル・ソリューション部

■ 調査項目

コンプレッサー編

- 1) 市場定義
- 2) 市場規模推移（2024年、2030年、2040年）
- 3) メーカー動向（2024年）
- 4) 参入企業一覧

品目編

- 1) 市場定義
- 2) 国内・世界市場概要・推移（2023年～2027年、2030年、2035年、2040年）
- 3) 国・地域別動向
- 4) 国・地域別用途シェア（2024年）
- 5) 冷媒採用（代替・転換）の方向性、新冷媒開発動向
- 6) コンプレッサー採用動向
- 7) メーカーシェア（2024年）
- 8) 注目製品・技術トレンド
- 9) 参入企業一覧

※品目によって記載のない項目あり

■ 目次

総括編

1. ヒートポンプ温水・空調市場の現状と将来展望	3
2. ヒートポンプ温水・空調市場総計	
1) 世界市場（金額ベース）	5
2) 国内市場（金額ベース）	6
3) エリア別・熱源別実績（数量ベース）	7
3. 国・地域別競合機器状況	
1) 住宅向け空調/暖房機	9
2) 住宅向け給湯機	10
3) 業務・産業向け空調/暖房機	11
4) 業務・産業向け給湯機	13
4. 機器の平均容量/容量単価推移	
1) 機器の1台あたり容量推移	14
2) 機器の容量単価推移	16
3) 機器の1台あたり単価推移	18
5. 冷媒のトレンドと今後の方向性	21
6. ヒートポンプ関連企業のアライアンス動向	23
7. 主要国・地域における脱炭素に向けた環境・省エネ施策の動向	
1) 代表的な環境・省エネ政策、補助事業の概要	27
2) 中長期CO2排出量削減目標	30
3) 建築物のLCAにおけるヒートポンプの位置づけ	31
4) ヒートポンプ市場拡大に寄与する燃焼機器への規制動向	33
5) トランプ関税がヒートポンプ市場に及ぼす影響	34
8. 主要国・地域における今後の見通し	
1) 日本	37
2) 中国	40
3) 欧州	43
4) 北米	46

■ 目次

冷媒編

1. 概要	51
2. 冷媒規制動向	
1) 冷媒に関するグローバルの規制動向	52
2) エリア別冷媒規制動向	52
3. 主要冷媒メーカーの動向	
1) Chemours	56
2) Solstice Advanced Materials	57
3) Arkema	58
4) Mexichem Fluor	59
5) AGC	59
6) ダイキン工業	60
4. 国内の再生冷媒におけるサプライチェーン	
1) 主要冷媒の商流と特徴	61
2) 再生冷媒のサプライチェーン	61
3) 再生冷媒の供給動向	62
5. 製品別動向	63

コンプレッサー編

1. コンプレッサー市場概要	
1) コンプレッサー種類別割合	75
2) 種類別コンプレッサーの主な用途	75
3) 原動機との接続形態	75
2. ロータリー	76
3. スクロール	79
4. スクリュー	81
5. レシプロ	83
6. ターボ	85

掲載項目

- 1) 市場定義
- 2) 市場規模推移（2024年、2030年、2040年）
- 3) メーカー動向（2024年）
- 4) 参入企業一覧

■ 目次

品目編

【住宅分野】

1. ルームエアコン	91
2. 住宅向けヒートポンプ給湯機	101
3. 住宅向けヒートポンプ温水暖房機	111
4. 地中熱利用ヒートポンプ	121
5. 住宅向け燃焼式給湯器	131
6. 住宅向け燃焼式温水暖房機	137
7. 電気温水器	143

【業務・産業分野】

8. パッケージエアコン/ビル用マルチエアコン	153
9. ガスエンジンヒートポンプエアコン	169
10. チリングユニット	177
11. ターボ冷凍機	187
12. 吸収式冷凍機（冷温水発生機）	196
13. 冷凍・冷蔵ショーケース	202
14. コンデンシングユニット	211
15. 業務用ヒートポンプ給湯機	221
16. 蒸気ボイラ（貫流ボイラ）	230
17. 業務用温水ボイラ	236

【輸送・移動体分野】

18. カーエアコン	245
19. 電動自動車用カーエアコン	252

【次世代技術】

20. 排熱回収ヒートポンプ	261
21. 蒸気/熱風発生ヒートポンプ	266
22. 磁気ヒートポンプ	270
23. カーボンニュートラル燃料ボイラ	272

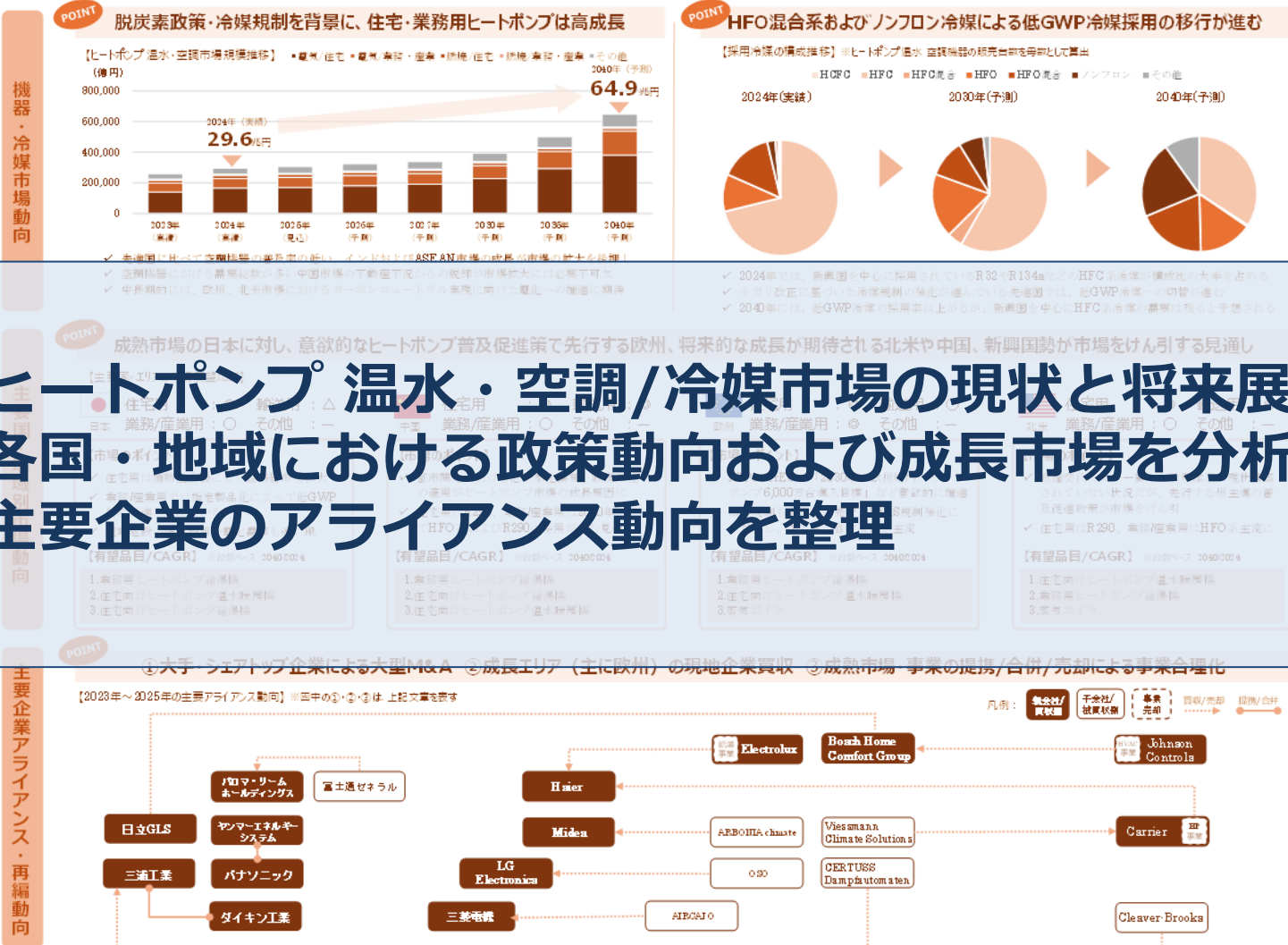
掲載項目

- 1) 市場定義
- 2) 国内・世界市場概要・推移
(2023年～2027年、2030年、2035年、2040年)
(1) 世界市場 (2) 国内市場
- 3) 国・地域別動向
- 4) 国・地域別用途シェア（2024年）
(1) 国・地域別用途動向 (2) 用途動向（国内市場）
- 5) 冷媒採用（代替・転換）の方向性、新冷媒開発動向
(1) 冷媒採用（代替・転換）の方向性 (2) 冷媒規制動向
(3) 新冷媒開発動向 (4) 冷媒種別割合（世界市場）
(5) 冷媒種別割合（国内市場）
- 6) コンプレッサー採用動向
(1) コンプレッサー種別割合（世界市場）
(2) コンプレッサー種別割合（国内市場）
(3) コンプレッサー採用動向
- 7) メーカーシェア（2024年）
(1) メーカーシェア i) 世界市場 ii) 国内市場
(2) 主要メーカーの注力販売エリア
(3) 企業再編の動き
(4) 主要メーカーの生産拠点・開発拠点
- 8) 注目製品・技術トレンド
- 9) 参入企業一覧

※品目によって記載のない項目あり

■アウトプットイメージ

総括編



※実際のページより一部を抜粋

総括編

〔富士經濟推定〕

■アウトプットイメージ

冷媒編

図表 2

3. 冷媒規制動向

2) 冷媒に關するグローバルの規制動向

冷媒の規制動向は大きく分けて2つあり、1つは、冷媒の製造・使用・廃棄の規制、2つは、冷媒の回収・再充填の規制である。

① 冷媒の製造・使用・廃棄の規制

冷媒の製造・使用・廃棄の規制は、冷媒の種類によって異なる。冷媒の種類によって、冷媒の製造・使用・廃棄の規制が異なる。

② 冷媒の回収・再充填の規制

冷媒の回収・再充填の規制は、冷媒の種類によって異なる。冷媒の種類によって、冷媒の回収・再充填の規制が異なる。

冷媒規制動向

図表 3

4. 主要冷媒メーカーの動向

1) Overview

① 主要冷媒メーカーの動向

② 主要冷媒メーカーの動向

③ 主要冷媒メーカーの動向

④ 主要冷媒メーカーの動向

⑤ 主要冷媒メーカーの動向

主要冷媒メーカーの動向

図表 4

5. 分野別機器×冷媒分析

① 分野別機器×冷媒分析

② 分野別機器×冷媒分析

③ 分野別機器×冷媒分析

④ 分野別機器×冷媒分析

⑤ 分野別機器×冷媒分析

分野別機器×冷媒分析

コンプレッサー編

図表 5

6. 市場規模推移

① 市場規模推移

② 市場規模推移

③ 市場規模推移

④ 市場規模推移

⑤ 市場規模推移

市場規模推移

図表 6

7. メーカーシェア・事業動向

① メーカーシェア・事業動向

② メーカーシェア・事業動向

③ メーカーシェア・事業動向

④ メーカーシェア・事業動向

⑤ メーカーシェア・事業動向

メーカーシェア・事業動向

■お問い合わせ・お申し込みについて

調査資料名：ヒートポンプ 温水・空調市場の現状と将来展望 2025

WEB掲載先：<https://www.fuji-keizai.co.jp/report/detail.html?code=112505836>

頒価 : 198,000円（税抜 180,000円）（書籍版）
 231,000円（税抜 210,000円）（書籍/PDF版セット）
 253,000円（税抜 230,000円）（書籍/PDF＋データ版セット）
 396,000円（税抜 360,000円）（ネットワークパッケージ版（ダウンロード））
 396,000円（税抜 360,000円）（ネットワークパッケージ版（CD-ROM））
 33,000円（税抜 30,000円）（電子書籍）※オプション（電子書籍単体での購入はできません）

発刊日 : 2025年11月27日

ページ数 : 275ページ

報告書体裁：書籍（A4）

お申込方法：弊社営業担当または上記URLより、お問い合わせください。

【お問い合わせ先】

株式会社富士経済
ソーシャル・ソリューション事業部
Tel 06-6228-2020